

「いのちは、自分が見える時間」

福山市立新市小学校

第3学年 石田 晋太郎

「いのちは、自分が使える時間」

石田 晋太郎

「いのちは時間」

ぼくは、この言葉がとも心に残っています。日野原先生のこの言葉を読んでから、ぼくは、今、ぼくは何のために時間を使って
いろいろなと考えるようになりました。

日野原先生の「いのちの授業」という本はお母さんにすすめられて初めて読みました。この本は日野原先生が「いのち」のことを十さい

広島県福山市立新市小学校

の子どもに授業するようになされた本です。お母さんがぼくにこの本をすすめた理由は、

六月にお父さんのお母さん、ぼくのおばあちゃんになくなって、人のいのちが終わるとい
うことがどのようないかきを考えてほしかった
たからだそうです。

読み始めておどろいたことは、ぼくの心ぞうが一分間に約八十回、休むことなく打つこと
とです。心ぞうが動いていることは知っています
ました。動物によつてその回数もちがって

いることははじめで知りました。必ずみは約
二百回、象は二十五回、と小さい動物は速く、
大きい動物はゆっくり打つことを知りました。
小さな動物は心ぞうも小さいから、速く動
て血を体に回さないといけないうのかな、と思
いました。

日野原先生は、

「いのちとはなんでしょうか。」
と、問いかけられています。ぼくは、最初、
いのちとはたましいや心ぞうのことだと思

広島県福山市立新市小学校

ていました。しかし、本を読んでいくうちに、
「いのちとは自分が使える時間」だということ
が分かりました。ぼくの「いのちの時間」が
どれくらいなのかわからないけれど、おば
あちゃん、「いのちの時間」は八十九年でし
た。おばあちゃんはその八十九年をまわりの
みんなに笑顔をとどけるために使っていたと
思います。みんながおばあちゃん、の笑顔を見
ると、元気がな、ていたと思います。ぼくは、
長生きして、「いのちの時間」がたくさんほ

しいなと思います。どうしてもかといふと、た
くさんやりたいことがあるからです。日野原
先生には百年以上の「いいのちの時間」があ
たのてうらやましいです。日野原先生は「い
のちの時間」をかん者さんの心と体を元気に
するため、たくさん使っていると思いました。
この本を読んで、建ちく家になりたかった
ぼくは、お医者さんにもなりたくなりまし
た。そして、ぼくの「いいのちの時間」を自
分のためだけになく、人のためにも使いた
くなりま

広島県福山市立新市小学校

した。わけは、日野原先生のようなだ
れにでもやさしくて、みんなを大切にす
る人になりたいたいからです。建ちく家
として、大雨や風にも負けない安全な家
を人のために作ってあげたり、お医者
さんとして病気の人を助けたり、あ
げたりしたいです。小学生のぼくは、一
日を学校で勉強したり、家で本を読ん
だり、遊んで過ごします。お父さんや
お母さんは、ぼくやお兄ちゃんのため
に時間を使ってくれます。だから、ぼ
く達も大きくなったら、みんなの

ために時間を使える人になりたいです。

日野原先生の本を読んだことのない人に、この本を読んでもいのちの大切さを知ってほしいです。いのちの大切さをみんなが知ると、いのちを大切にしたいと思う人がいえて、自分の時間を人のために使いたいと思う人がふえるので、日本のみんながやさしくなると思います。います。そんな日本や世界になるように、早くも日野原先生のようにいのちの大切さを伝えられる人になりたいと思います。

広島県福山市立新市小学校

指導者の言葉

本校では、年間を通じて読書活動の推進として次のような取組を行っています。

週に3回以上の10分間朝読書により、読書に親しむ。

自分で選んだ本を読んで読書貯金カードへの記録をすることにより、好きな文や文章を選ぶ力を高め、自分の読書生活を振り返る。

図書ボランティアによる月1回の読み聞かせや、新市図書館司書によるブックトークを聴き、いろいろな種類の本に触れる。

国語科の学習では、文章に対する感想を書いたり、話し合ったりする活動を通して次のことを指導してきました。

自分の体験と重ね合わせながら登場人物の気持ちを想像して読むこと。

心に残った場面や言葉を中心に感想を話したり書いたりすること。

さらに、夏休み前には、「本を使って調べよう」で図書館の工夫や調べ方について学習したり、「本は友だち」でいろいろな本の紹介を聞いたりするなど、児童がたくさんの本に出会うことができるように取り組みました。

この作品は、児童が保護者とともに図書館に行って本を選び、夏休みの課題「読書感想文」として書いた作品です。児童が祖母の死を体験したことで、「いのち」というものを考えるきっかけになり、3年生という年齢らしい素直な気持ちで、著者の言葉を受け止めていることが感じられます。「いのちは、時間」という心に残った言葉を中心にして自分の感想を書き、自分の生き方や将来についても見直しています。読書によって得た知識や自分の感動をまわりの人にも伝えたいという思いが伝わる優れた作品です。